

## 弥生時代中国地方における脚付長頸壺形土器について

村田 晋

### 1. はじめに

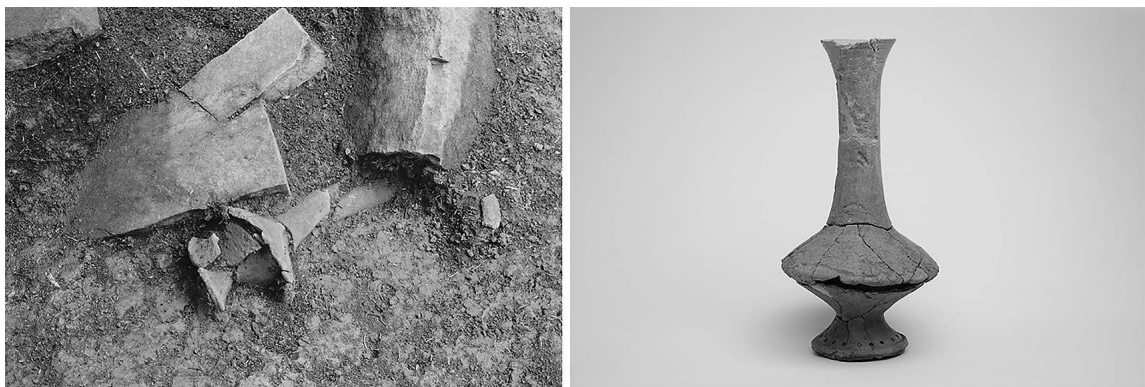
大学院生の頃、広島県庄原市にある佐田峠墳墓群の調査に参加する機会をいただいた時、佐田峠2号墓の墓壇上から、脚付長頸壺形土器（以下、脚付長頸壺）が出土した。

佐田谷・佐田峠墳墓群は、弥生時代中期後葉から後期前葉にかけて、多様な形態の墳墓が築かれるなど、当該地域における墳墓の発展を知る上で重要視される遺跡であった。同時に、周辺時期においては搬入品の少ない備後北部地域において、明確に他地域（吉備南部系）の意匠を備えた土器がまとまって出土していることから、地域間関係を考える上でも無視できない遺跡として注目していた。

脚付長頸壺という器種については、出土した時点で、佐田峠墳墓群の築かれた備後北部地域の器種組成に含まれないことは明らかであった。初めに搬入元を考えたときは、江の川水系を通じて備後北部地域との交流が説かれる（伊藤 2005）、石見東部地域の波来浜遺跡出土例（宇野・門脇 1973）などがまず思い浮かんだ。

しかし、両者は外見的に違いが大きく、より広くその故地を調べていくうちに、佐田峠2号墓で出土した個体が、弥生時代後期前葉頃の時期に位置付けられ、吉備南部系の意匠をもつものであることがわかった（第1図）。墳墓の構築方法や土器供献のあり方など、中期末葉から後期初頭にかけて墳墓群内で生じている変化に対して、吉備南部方面からの影響を重ねて意識する結果となった。

そして、それまで脚付長頸壺について取り上げた研究が皆無だったこともあり、資料収集の範囲を拡大し、基礎情報について整理を行うこととした。脚付長頸壺が周辺時期・地域においてどの程度の量出土しているのか、また、どのような扱いを受けている器種なのか、佐田峠墳墓群が営まれた周辺時期における備後北部地域をとりまく墓制・地域性の比較研究の一環として分析を試みたい。



第1図 佐田峠2号墓出土脚付長頸壺（野島ほか 2013より）

## 2. 資料の分析

### (1) 資料収集の範囲

佐田峠2号墓出土例との比較を重視するため、その周辺時期・地域を範囲に集成を行った。時期については弥生時代中期中葉から後期中葉を中心とし、地域としては、広島県域、岡山県域、島根県域、鳥取県域を対象とした。なお、作業をしていく過程で未発表の個体に関しても幾らか情報を得たが、今回は既発表のものに限定した。

### (2) 分布状況

類似する形態のものを含め、計73点を収集した(第2～5図・付表)<sup>(1)</sup>。地域別の内訳は、広島県域8点、岡山県域54点、島根県域6点、鳥取県域5点である。出土数は岡山県域、特に高梁川中下流域から旭川下流域を中心とした岡山県南部地域に圧倒的な集中をみせ、分布も面的である。一方、他地域では共通して出土数が少なく、河川や盆地単位で漠然としたまとまりは窺えるものの、基本は点的な分布を示している(第6図)。

収集範囲を限定したため、当該器種がどの時期まで存続するのかについてまでは調査できていない。ただし、どの地域においても中期中葉には既に出現し、中期後葉から後期前葉にかけて増加するという傾向は概ね一致するようである。

### (3) 出土遺跡・遺構の性格

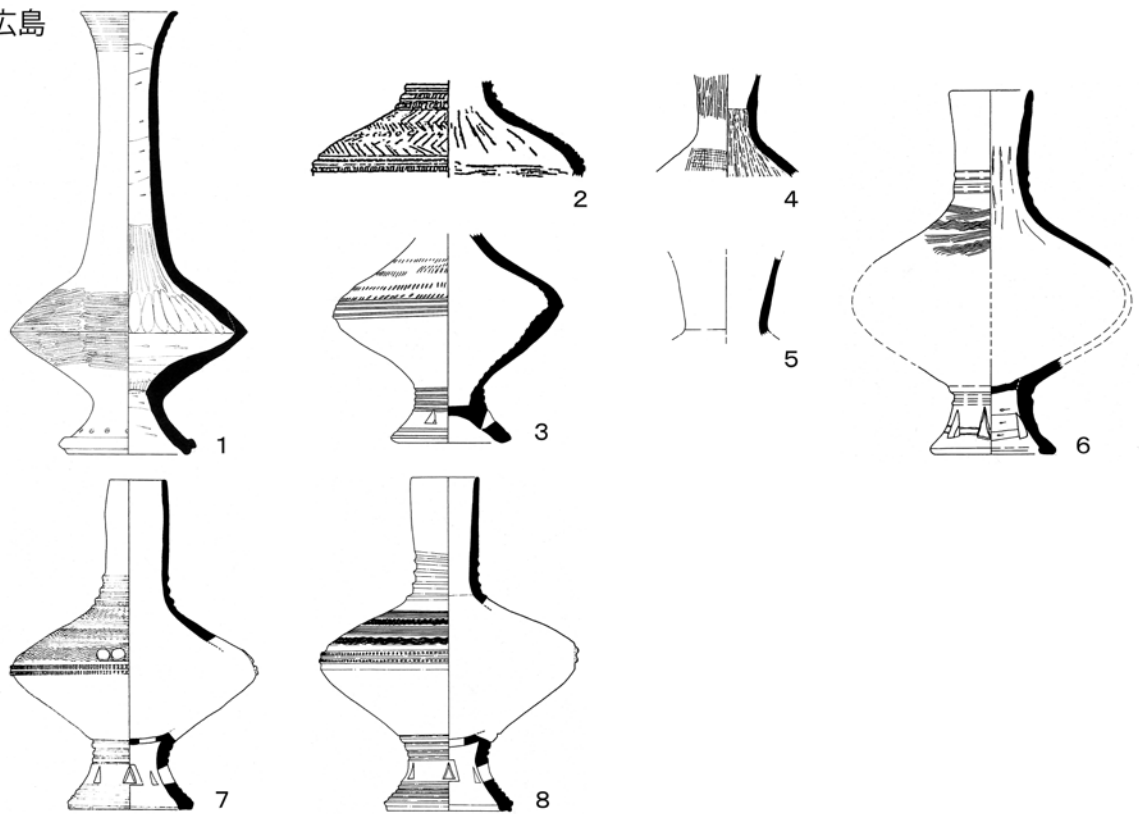
集落域出土か、墓域出土かに大きく分かれる(付表)<sup>(2)</sup>。まず、広島県域・島根県域においては、全体の出土数自体が僅少なながらも、墓域における出土が過半数となることが指摘できる。両地域において脚付長頸壺は常用器種ではなく、墓で用いるために特別に製作される器種であった可能性が高い。これに対し、岡山県域・鳥取県域では集落域における出土が殆どとなる。岡山県域の状況は非常に対照的であり、全体の出土数が55例もありながら、墓域での出土は僅か4例にとどまっており、上記した分布の中心地である岡山県南部地域ではほぼ皆無と言っていい。このことから、少数派の常用器種として定着してはいるものの、特別に選んで墓で用いているとは考えにくい状況である。鳥取県域においては、全体数も少なく、出土も集落域からのみという状況である。数だけから言えば、少なくとも常用器種ではないと言えそうである。以上のように、広島県域及び島根県域と、特に岡山県域の間には、脚付長頸壺の扱われ方、出土遺跡・遺構の性格と、常用器種か非常用器種かという面において明瞭な違いが指摘できる。

### (4) 型式学的特徴からみた地域色・地域間関係

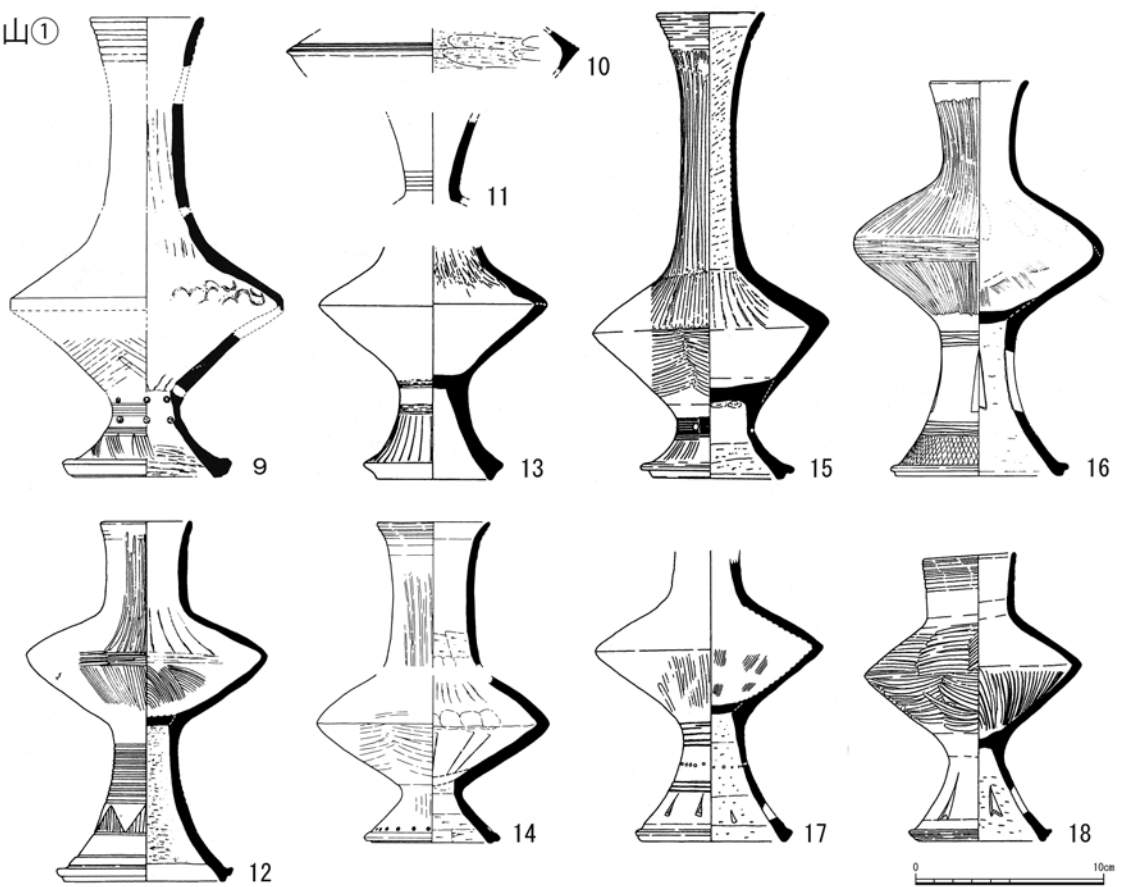
**岡山県域** まず、岡山県域では脚付長頸壺の特徴に地域的なまとまりが見受けられる(第2～5図)。岡山県域では、ほとんどのものは胴部中央が算盤玉様に明瞭な稜をもって屈曲する。脚部と口縁部上位以外の箇所には施文されることは少なく、他県域と比べて文様は簡素である。外面は丹念なヘラミガキが施される。上半部の作りは、佐田峠2号墓出土例において復元されたような(野島ほか2013)、頸部を絞り出して成形するものである場合が多いと考えられ、そのため、頸部基部外面にも凸帯など接合のフォローを兼ねた文様をもたない。

岡山県域では、土器の時期的な特徴も明確に捉えることができる(第7図)。まず、中期

広島

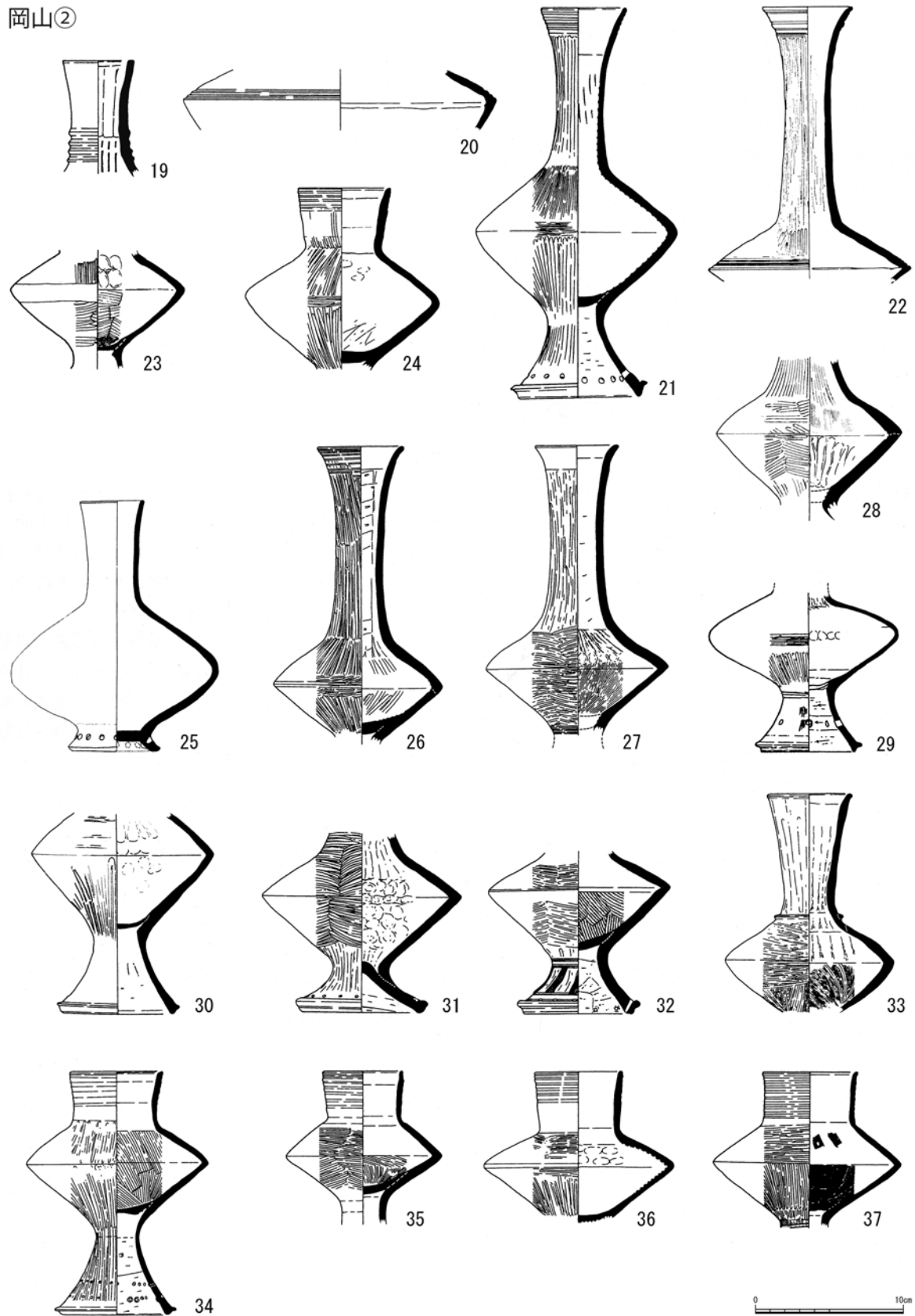


岡山①



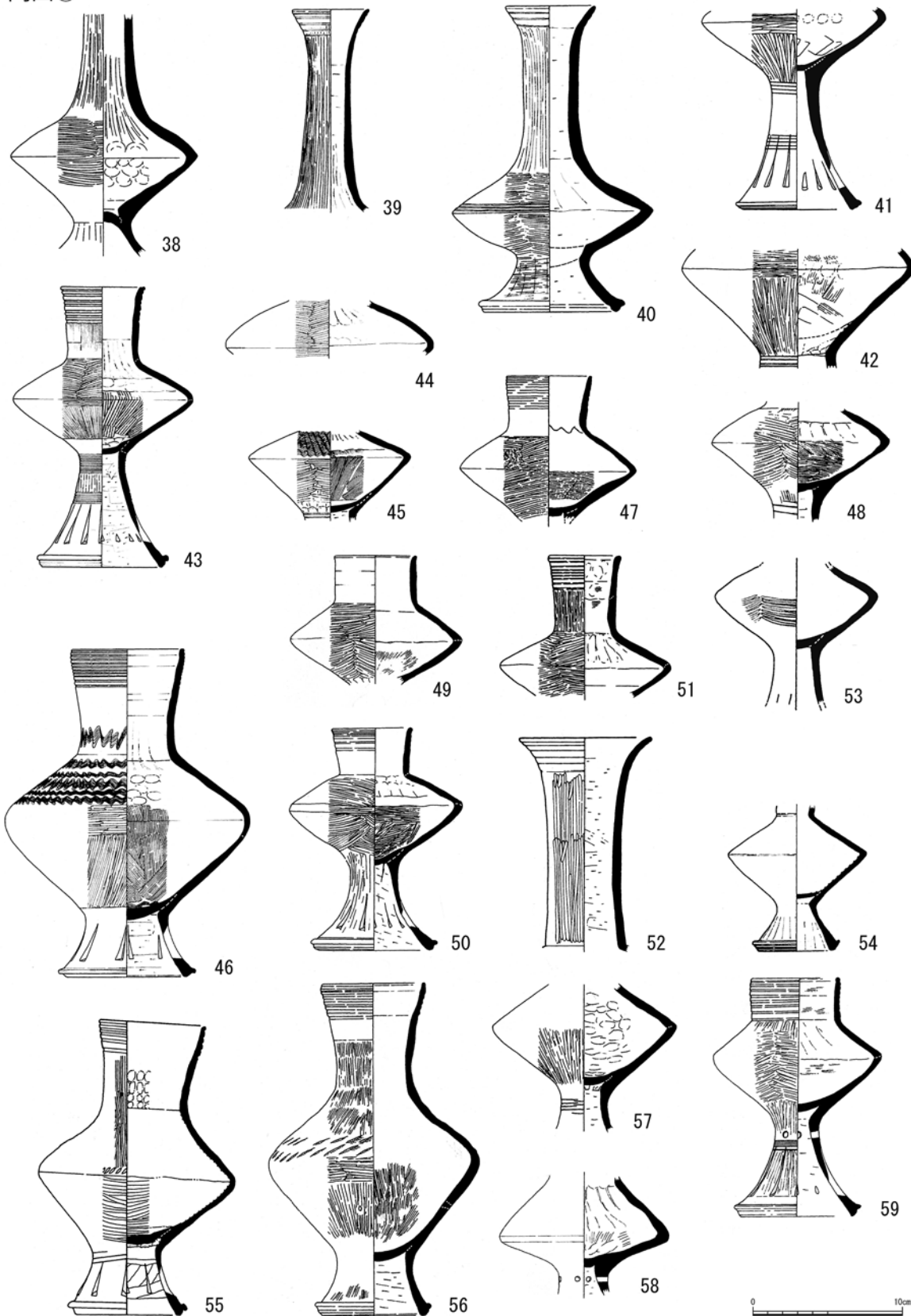
第2図 中国地方脚付長頸壺集成 (1) (S=1/4)

岡山②



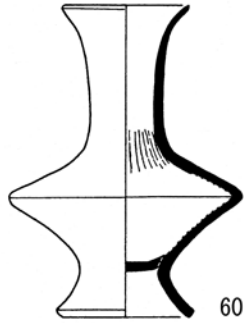
第3図 中国地方脚付長頸壺集成(2) (S=1/4)

岡山③

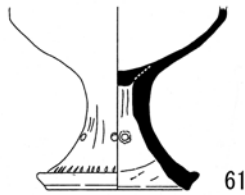


第4図 中国地方脚付長頸壺集成(3) (S=1/4)

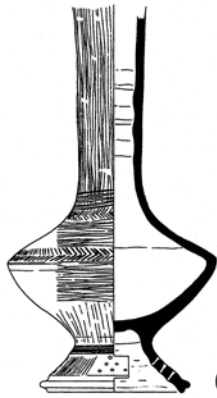
岡山④



60



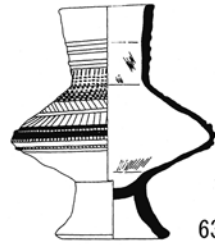
61



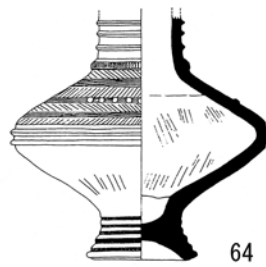
62



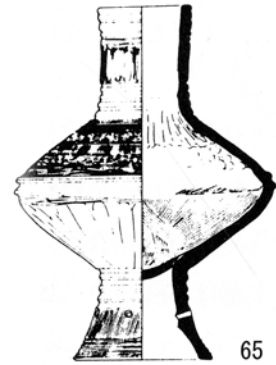
島根



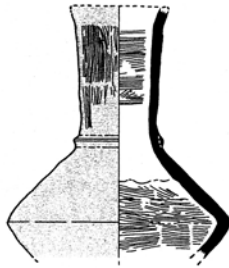
63



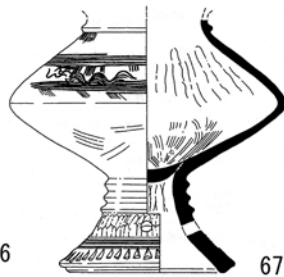
64



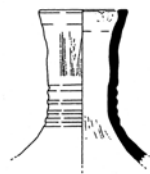
65



66

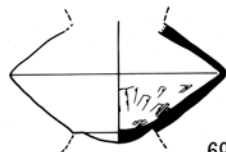


67

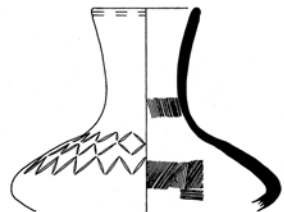


68

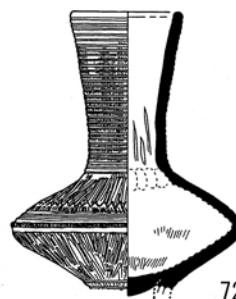
鳥取



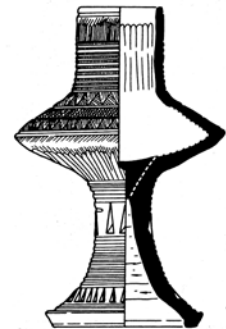
69



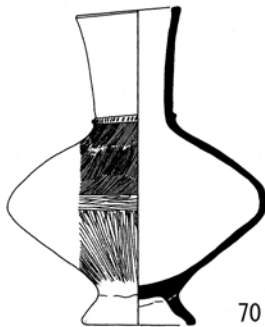
71



72



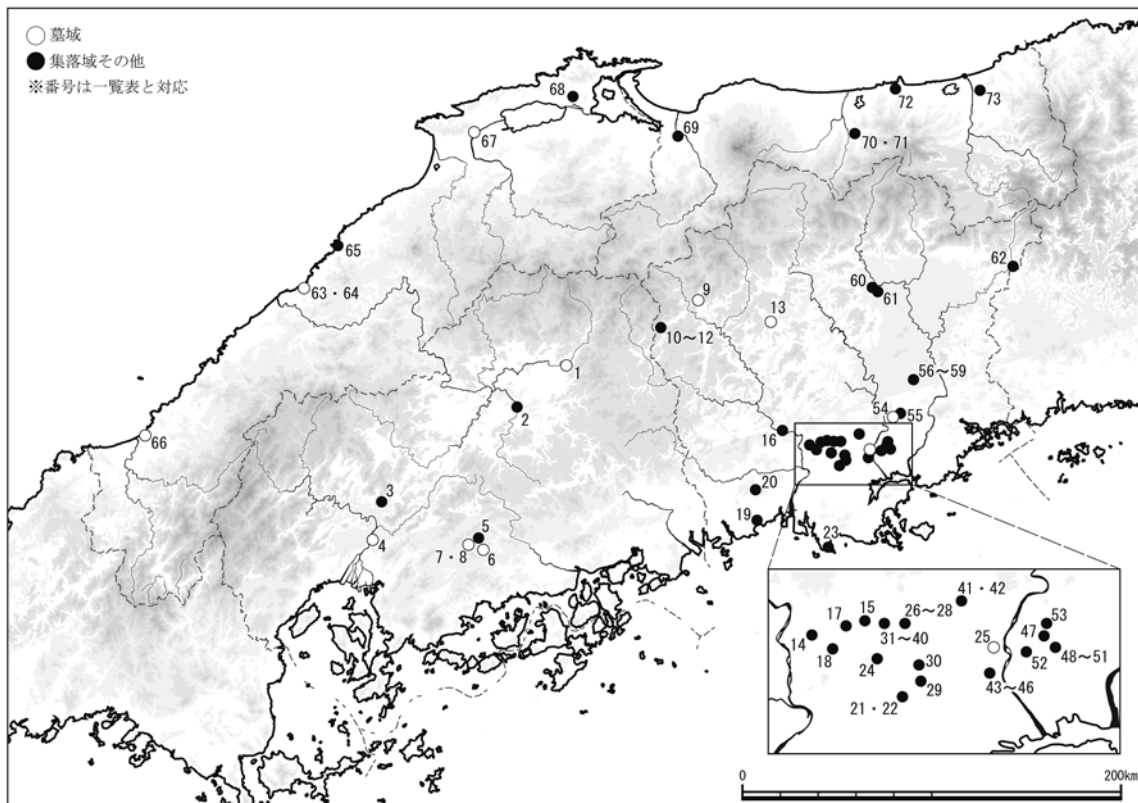
73



70



第5図 中国地方脚付長頸壺集成(4)(S=1/4)



第6図 脚付長頸壺分布図 (S=1/40,000)

後葉の個体は長脚長頸で、頸部の絞り込みも弱い。ヘラケズリは脚部内面のみである。

後期前葉になると、短脚長頸へと変化し、頸部の絞り込みが強まるとともに、胴部の稜も鋭くなる。中期後葉ではしばしばみられた三角形透孔もみとめられなくなり、非貫通の円孔となると同時に、脚部の文様がより簡素となる。ヘラケズリは、脚部内面に加え、胴部や頸部にまで施されるようになる。

吉備に限らず、各地域とも底部は粘土円板を貼りこむものが殆どであり、脚部の意匠と併せて、基本的に高杯の製作技術が応用されていると考えられる。しかし、後期前葉の岡山県域における脚付長頸壺の一斉短脚化は、高杯の形態変化とは関係なく独立して起こっていると考えられるため、出土例が増えて一定したこの段階で、脚付長頸壺が一器種として確立したとみなすことができそうである。

**その他の県域** 上述したように、長頸壺の特徴については、岡山県域で地域的なまとまり・類似性が見受けられた。続いて他県域の脚付長頸壺（第2・5図）、特に広島県域の事例を中心に、型式学的特徴をみていくが、出土数が少なく、時期的変化を捉えることは難しいため、ここでは主に地域間関係について述べることにする。

これらの県域で共通してよくみられるのは、胴部中央が緩やかに屈曲して丸みをもつプロポーシヨンの個体である。文様は、脚部と口縁部上位に加えて、胴部中央から上半、口縁基部にまで施されている場合が多く、装飾性は高いといえる。

このうち、江津市波来浜遺跡など石見東部地域における出土例、三次市塩町遺跡の出土例、東広島市西本遺跡群など安芸地域における出土例は、プロポーシオンや施文帯の位置を含めた土器全体のデザインが類似している(第8図)。

塩町遺跡の長頸壺は、在地の土器組成に長頸壺がないことからおそらく搬入品であり、諸特徴からみて、江の川を通じて石見東部地域からもたらされたと考えられる。

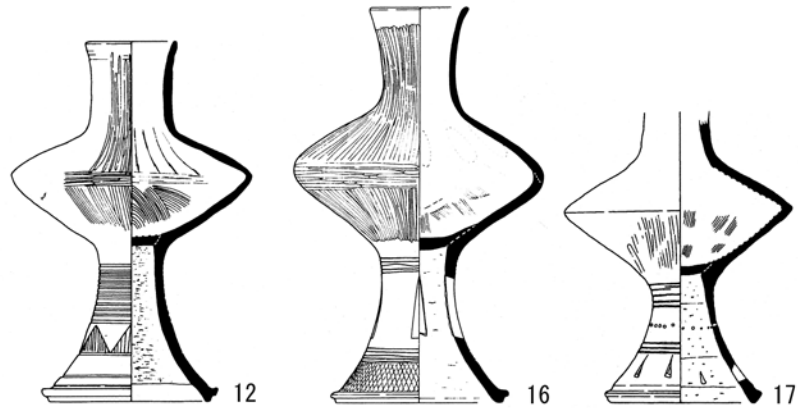
西本遺跡群の長頸壺は、石見東部の長頸壺にはみら

れない三角形透孔が施されているなどの変化がみとめられ、直接の搬入品ではなく、在地製作の可能性が高い。ただ、やはり周辺では珍しい非常用器種とみなしうるもので、デザインの類似性に加え、墓で用いるところは石見東部地域と共通している。広島市下町屋トンネル付近発見の長頸壺も、特徴的には西本遺跡群のものと同じ範疇で捉えうる。

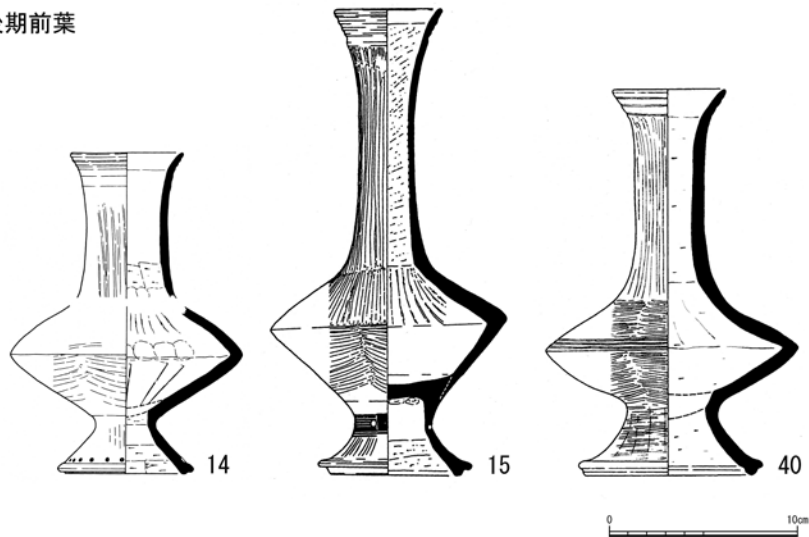
石見東部と安芸西条の両地域では、互いの直接的交流を裏付ける考古資料は周辺時期において明確でないが、まったく無関係にそれぞれが製作されたとは考えにくい。

西本遺跡群から若干北の、豊栄町乃美1号遺跡で備後北部第IV様式の指標とされる塩町式土器が出土していることなどから(石垣ほか 2014)、安芸西条地域と備後北部地域の間には交流があったことについては首肯しうる。以上のことから、西本遺跡群の長頸壺は、備後北部地域を介して、石見東部地域からの間接的影響を受けて製作された可能性が指摘できる。さ

中期後葉



後期前葉



第7図 岡山県域における脚付長頸壺の変遷 (S=1/4)



らに踏み込んで述べれば、広島県域の長頸壺を墓に供える例は、石見東部からもたらされた思想の影響を受けた、という想定も可能であろう。

#### 4. まとめ

ごく限定的にはあるが、脚付長頸壺という器種について、各地における出土数、出土遺構からみた器種としての扱われ方、型式学的特徴や地域間関係について述べた。

内容をまとめると、まず岡山県域、特に高梁川中下流域から旭川下流域を中心とした岡山県南部では、出土数が圧倒的に多い。一方で、墓から

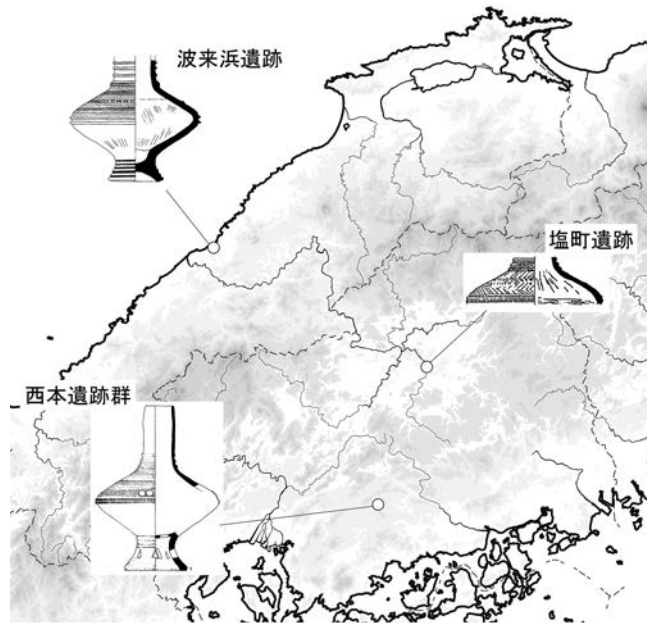
の出土は少なく、特定の性格をもつ遺構からの偏った出土傾向もないため、常用器種として扱われている可能性が高いことがわかった。また、時期的にある程度の型式変化が追えることも確認できたが、今回は行えなかったものの、共伴資料の精査などから、さらに細分編年を組むことができる可能性がある。

その他県域では、出土数は一桁の珍しい器種でありながら、広島県域・島根県域では墓に伴うことが多く、非日常用器種として扱われている可能性が高いことがわかった。そして、数は少ないながらも特徴的に類似しており、墓で用いるという共通点もあることから、石見東部地域から安芸（特に西条）地域に、備後北部地域を介した間接的な影響があった可能性を指摘した。

ところで、佐田峠2号墓で出土した脚付長頸壺は、結果的に岡山県外では唯一明らかな吉備南部系のものであることがわかったが、脚付長頸壺という器種に限定した場合、墓に供えるというその使われ方は吉備南部的ではないといえる。吉備南部系の土器を石見東部的な、あるいはそれに影響を受けた在地的なやり方で墓に供えたという解釈も可能であり、陰陽の結節点である備後北部地域に位置するがために生じた、この遺跡ならではの特徴として理解できるかもしれない。

本論は、2015年7月12日に広島大学文学部棟で行われた中国四国歴史学地理学協会〔考古学学会〕において、同題で発表した内容を基にまとめたものである。

本論をまとめるにあたり、執筆する機会をくださり、研究内容について広くご指導・ご助言を賜った野島永先生、佐田峠墳墓群や土器の調査・研究に関して多くのご助言をいただいた今福拓哉氏、本論の基礎となる資料収集を共に協力して行った藤井雅大氏、藤井翔平氏、



第8図 類似する脚付長頸壺の例

市川伯博氏をはじめとした広島大学考古学研究室の皆さま（在学当時）には大変お世話になりました。記して厚く感謝申し上げます。

## 註

- (1) 転載した図面は、体裁統一のため、断面が白抜きのはすべて黒塗りに改変した。また、付表に記した各出土例の時期については、基本的には文献に従い、一部は筆者が判断した。
- (2) 例えば岡山市南方遺跡（25）、江津市波来浜遺跡（64）のように、周辺に埋葬関連の遺構しか検出されていないものは、遺構外であっても墓に供献された、あるいはその予定だったものと捉えられる。

## 引用・参考文献

- 石垣敏之ほか 2014 『乃美1～4号遺跡発掘調査報告書』東広島市教育委員会文化財調査報告書第46集、東広島市教育委員会。
- 伊藤 実 2005 「四隅突出型墳丘墓と塩町式土器」『考古論集 一川越哲志先生退官記念論文集一』川越哲志先生退官記念事業会。
- 平井泰男 2002 「備中南部における弥生時代中期後葉から後期前葉の土器編年」『環瀬戸内海の考古学 一平井勝氏追悼論文集一』上巻、古代吉備研究会。
- 正岡睦夫・松本岩雄編 1992 『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編、木耳社。

## 報告書類

〈広島県〉

- 植田 広ほか 2008 『高屋東2号・3号遺跡発掘調査報告書 一般国道375号（東広島道路）道路改良事業に係る発掘調査』文化財センター調査報告書第60冊、東広島市教育文化振興事業団文化財センター。
- 金井亀喜・中田 昭・三好晴弘 1976 『西本遺跡群（A・B・C）』広島県教育委員会。
- 楯木敬太・平岡啓二 2011 『トンガ坊城遺跡・坊主山遺跡・柳遺跡・琴平遺跡 一般国道54号（可部バイパス）建設に伴う発掘調査』(財)広島市未来都市創造財団発掘調査報告書第1集、財団法人広島市未来都市創造財団。
- 佐々木直彦ほか 1992 『東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ』広島県埋蔵文化財センター調査報告書第97集、広島県埋蔵文化財センター。
- 野島 永・辻村哲農・藤井雅大ほか 2013 「佐田谷・佐田峠墳墓群（第6次）の調査」『広島大学大学院文学研究科 帝釈遺跡群発掘調査年報』XXVII、広島大学大学院文学研究科帝釈遺跡群発掘調査室・考古学研究室。
- 藤井孝章ほか 1983 『広島市安佐北区高陽町所在 弘住遺跡発掘調査報告』広島市の文化財第25集、広島市教育委員会。
- 松崎寿和 1955 「古代農村の復元」『廣島の農村』第2集、平和と学問を守る大学人の会。

〈岡山県〉

- 池畑耕一・伊藤 晃・柳瀬昭彦ほか 1974 「上東遺跡の調査」『山陽新幹線建設に伴う調査Ⅱ（岡山以西）』埋蔵文化財発掘調査報告第2集、岡山県文化財保護協会。
- 伊藤 晃・岡田 博・二宮治夫 1998 「田益田中遺跡」『大岩遺跡・田益田中遺跡・白壁奥遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告128、岡山県教育委員会。
- 伊藤 晃・山磨康平ほか 1977 『倉敷市（児島）城遺跡発掘調査報告 県立児島高校移転用地造成に伴う発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告19、岡山県教育委員会。
- 井上 弘 1976 「谷尻遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査6』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告

- 11、岡山県教育委員会。
- 井上 弘ほか 2004 「中撫川遺跡」『新邸遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡 一般県道吉備津松島線道路改築に伴う発掘調査Ⅰ』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告182、岡山県教育委員会。
- 岡本泰典・石田爲成 2008 「中町B遺跡」『八幡山遺跡 八幡山南遺跡 八幡山円明寺跡 尾崎遺跡 中町B遺跡 穴が途遺跡 穴が途古墳 今岡D遺跡 今岡中山遺跡 今岡古墳群 高岡遺跡 中国横断自動車道姫路鳥取線（鳥取自動車道）建設に伴う発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告213、国土交通省岡山国道事務所・岡山県教育委員会。
- 神原英朗 1973 『四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報第3集、山陽町教育委員会。
- 神原英朗 1977 『用木山遺跡 他 惣図遺跡第2地点・新宅山遺跡』岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報（4）、岡山県山陽町教育委員会。
- 草原孝典・西田和浩 2005 『赤田東遺跡 吉備中枢部における集落遺跡の発掘調査報告』岡山市教育委員会文化財課。
- 小林利晴ほか 2001 『上東遺跡 主要地方道箕島高松線改良工事に伴う発掘調査3』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告158、岡山県教育委員会。
- 栄 一郎・山本悦世ほか 1988 『鹿田遺跡Ⅰ』岡山大学構内遺跡発掘調査報告第3集、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター。
- 澤山孝之・島崎 東・山磨康平ほか 1996 『津寺遺跡3 山陽自動車道建設に伴う発掘調査12』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告104、岡山県教育委員会。
- 下澤公明・友成誠司 1977 「横見墳墓群と横見古墳群の調査」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査9』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告15、岡山県教育委員会。
- 下澤公明ほか 2004 「才地遺跡」『八ヶ奥遺跡・八ヶ奥製鉄遺跡・岡遺跡・小坂古墳群・才地古墳群・才地遺跡 主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路）道路改築に伴う発掘調査2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告178、岡山県教育委員会。
- 高畑知功ほか 1993 『山陽自動車道建設に伴う発掘調査6』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告82、日本道路公団広島建設局岡山工事事務所・岡山県教育委員会。
- 高畑知功・正岡睦夫 1997 『津寺遺跡4 山陽自動車道建設に伴う発掘調査14』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告116、岡山県教育委員会。
- 武田恭彰 2003 『三須河原遺跡 三須畠田遺跡 三須美濃田遺跡』総社市埋蔵文化財発掘調査報告16、総社市教育委員会。
- 田仲満雄ほか 1977 「西江遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査10』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告20、岡山県教育委員会。
- 谷山雅彦・高田明人 1987 「塩田遺跡」『総社市史』考古資料編、総社市。
- 出宮徳尚・伊藤 章 1971 『南方遺跡発掘調査概報』岡山市遺跡調査団。
- 仁木康治 2005 『曾根田遺跡 半太遺跡 稗田遺跡 久保田遺跡 経営体育成基盤整備事業倭文東地区に伴う発掘調査1』久米町埋蔵文化財発掘調査報告、久米町教育委員会。
- 平井典子 1996 「共同住宅建設に伴う確認調査（井手村後遺跡）」『総社市埋蔵文化財調査年報』6、総社市教育委員会。
- 平井泰夫ほか 1996 『南溝手遺跡2 岡山県立大学建設に伴う発掘調査Ⅱ』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告107、岡山県教育委員会。
- 平井泰夫ほか 1997 『窪木遺跡1 岡山県立大学建設に伴う発掘調査Ⅲ』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告

120、岡山県教育委員会。

福田正継・光永真一・島崎 東ほか 1995 『津寺遺跡 2 山陽自動車道建設に伴う発掘調査10』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告98、岡山県教育委員会。

正岡睦夫ほか 1972 「雄町遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告（1） 山陽新幹線建設に伴う調査』岡山県教育委員会。

松本和男・柴田英樹ほか 1999 「加茂政所遺跡」『加茂政所遺跡 高松原古才遺跡 立田遺跡 山陽自動車道建設に伴う発掘調査17』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138、岡山県教育委員会。

水田貴士・白石 純 2008 『森山遺跡 鴨方駅南土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査』浅口市埋蔵文化財発掘調査報告 1、浅口市教育委員会。

水田貴士ほか 2009 『竹林寺天文台遺跡 国立天文台新観測所建設に伴う発掘調査』浅口市埋蔵文化財発掘調査報告 2、浅口市教育委員会。

村上幸雄 1979 「釜田遺跡」『椀山遺跡群 I』久米開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）、久米開発事業に伴う文化財調査委員会。

柳瀬昭彦ほか 1977 『川入・上東 都市計画道路（富本町・三田線）に伴う埋蔵文化財発掘調査』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16、岡山県教育委員会。

和田 剛・物部茂樹・浅倉秀昭ほか 2007 「百間川兼基遺跡」『百間川兼基遺跡 4 百間川沢田遺跡 5 旭川放水路（百間川）改修工事に伴う発掘調査XVI』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告208、国土交通省岡山河川事務所・岡山県教育委員会。

渡辺 光・岡田 博ほか 1984 『百間川原尾島遺跡 2』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告56、建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会。

〈島根県〉

今岡一三・松尾充晶ほか 2006 『青木遺跡Ⅱ（弥生～平安時代編）』国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3、島根県教育委員会。

宇野 栄・門脇俊彦 1973 『波来浜遺跡発掘調査報告書 第1・2次緊急調査概報』島根県江津市。

瀬古諒子ほか 1992 『朝酌川河川改修工事に伴う タテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅳ』島根県土木部河川課・島根県教育委員会。

東山信治ほか 2008 『沖手遺跡 専光寺脇遺跡 中世の大規模集落遺跡と弥生時代の墳丘墓』一般国道9号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 5、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所・島根県教育委員会。

藤田 等・児島 弘・三宅博士ほか 1987 「坂灘遺跡」『島根県埋蔵文化財調査報告書』第13集、島根県教育委員会。

〈鳥取県〉

北浦弘人・鬼頭紀子・森本倫弘・野口真吾 2000 『鳥取県気高郡青谷町 青谷上寺地遺跡 2 一般国道9号（青谷・羽合道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ』鳥取県教育文化財団調査報告書68、財団法人鳥取県教育文化財団・建設省鳥取工事事務所。

久保穰二郎 1990 「弥生時代の集落立地について -鳥取平野とその周辺の場合-」『鳥取県立博物館研究報告』27号、鳥取県立博物館。

小島英伸・山元敏裕ほか 1984 『丸山遺跡発掘調査報告書 鳥取県東伯郡三朝町大字本泉』鳥取県三朝町教育委員会。

船越元四郎・諸田 良・富長源十郎ほか 1976 『鳥取県米子市 青木遺跡発掘調査報告書 I F・J地区』I、青木遺跡発掘調査団。

益田 晃・中原 斉・瀧川友子 1989 『長山馬籠遺跡』鳥取県日野郡溝口町教育委員会。

付表 中国地方脚付長頸壺集成表

番号	遺跡名	所在地	遺跡種別	出土遺構	遺構性格	時期	法量 (cm) [ ] は復元値				文献		
							器高	口径	胴部径	底径			
1	佐田峠墳墓群A地区	広島県庄原市宮内町	墳墓	2号墓ST06上	埋葬主体部	後期前葉	30.7	[6.8]	16.4	8.2	野島・辻村・藤井ほか2013		
2	塩町遺跡	広島県三次市大田幸町	集落	不明	不明	中期～後期			19.0		松崎 1955		
3	下町屋トンネル付近	広島県広島市安佐北区	—	表採	—	中期中葉～後葉			16.1	7.2	楳木・平岡 2011		
4	弘住遺跡	広島県広島市安佐北区	墓	配石遺構	祭祀・埋葬	中期中葉					藤井ほか1983		
5	浄福寺2号遺跡	広島県東広島市高屋町	集落・墓	SS 8	貯蔵穴	後期中葉					佐々木ほか1992		
6	高屋東2号遺跡	広島県東広島市高屋町	墓	土坑墓32	埋葬	中期中葉～後葉	[12.3]	8.4		8.4	植田ほか2008		
7	西本遺跡群A地点	広島県東広島市高屋町	集落・墓	周溝墓状遺構	埋葬	中期中葉	23.0	3.8	17.4	8.6	金井・中田・三好 1976		
8	西本遺跡群B地点	広島県東広島市高屋町	集落・墓	壺蓋土城墓	埋葬	後期中葉			4.5	18.0	8.6	金井・中田・三好 1976	
9	横見墳墓群7号墳墓	岡山県新見市上市	古墳・墓	土壇7-6	墳丘下埋葬	後期前葉	[35.0]	[8.0]	18.9	[10.0]	下澤・友成 1977		
10	西江遺跡安信丘陵部	岡山県新見市哲西町	集落	3号住居址	住居	中期中葉～後葉	25.0	6.2	16.8	11.2	田仲ほか1977		
11	西江遺跡安信丘陵部	岡山県新見市哲西町	集落	包含層	—	後期前葉～中葉					田仲ほか1977		
12	西江遺跡安信丘陵部	岡山県新見市哲西町	集落	包含層	—	中期中葉				[22.2]	田仲ほか1977		
13	谷尻遺跡	岡山県真庭市上水田	集落・墓	No30土壇	埋葬?	後期前葉～中葉			15.8	7.9	井上 1976		
14	井手村後遺跡	岡山県総社市井手	集落	土壇	廃棄穴?	後期前葉			7.8	16.2	8.2	平井 1996	
15	窪木遺跡	岡山県総社市窪木	集落	河道6	自然流路	中期中葉～後期前葉	32.4	7.4	16.4	8.6	平井ほか1997		
16	塩田遺跡	岡山県総社市下倉	集落	土壇1	不明	中期中葉～後葉	27.6	6.6	17.4	11.6	谷山・高田 1987		
17	南溝手遺跡	岡山県総社市南溝手	集落	竪穴住居26	住居	中期中葉			15.8	10.0	平井ほか1996		
18	三須島田遺跡	岡山県総社市三須	集落	土器溜まり	不明	中期中葉～後期前葉	21.0	6.2	15.2	8.6	武田 2003		
19	森山遺跡	岡山県浅口市鴨方町	集落・水田	溝29 (下層)	排水路?	中期			6.2		水田・白石 2008		
20	竹林寺天文台遺跡	岡山県浅口市鴨方町・小田郡矢掛町	集落	包含層	—	後期前葉				[27.7]	水田ほか2009		
21	上東遺跡	岡山県倉敷市上東	集落	溝16	区画溝	中期中葉	34.4	7.6	17.8	10.6	小林ほか2001		
22	上東遺跡	岡山県倉敷市上東	集落	包含層	—	中期中葉～後葉			7.8	17.8	池畑・伊藤・柳瀬ほか1974		
23	城遺跡第3地点	岡山県倉敷市児島	集落	東半部北側斜面	—	中期中葉				15.4	伊藤・山磨ほか1977		
24	矢部大塊遺跡	岡山県倉敷市矢部	集落	溝-1	自然流路	中期中葉			8.0	17.1	高畑ほか1993		
25	南方遺跡	岡山県岡山市北区	墓	不明	不明	中期中葉			22.2	5.4	18.3	7.5	出宮・伊藤 1971
26	加茂政所遺跡	岡山県岡山市北区加茂	集落	袋状土壇31	貯蔵穴	後期前葉			7.5	14.8	松本・柴田ほか1999		
27	加茂政所遺跡	岡山県岡山市北区加茂	集落	袋状土壇37	貯蔵穴	後期前葉			7.1	16.0	松本・柴田ほか1999		
28	加茂政所遺跡	岡山県岡山市北区加茂	集落	遺構外	—	後期前葉				16.4	松本・柴田ほか1999		
29	川入遺跡	岡山県岡山市北区川入	集落	住居址6	住居	中期中葉～後葉			16.8	8.2	柳瀬ほか1977		
30	中撫川遺跡	岡山県岡山市北区中撫川	集落	溝2	水路	中期中葉～後葉			20.0	9.6	井上ほか2004		
31	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	袋状土壇-74	貯蔵穴	後期前葉			17.6	10.2	福田・光永・島崎ほか1995		
32	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	袋状土壇-107	貯蔵穴	後期前葉			16.0	9.3	福田・光永・島崎ほか1995		
33	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	土壇-78	不明	後期前葉			7.0	14.9	福田・光永・島崎ほか1995		
34	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	土壇-87	不明	中期中葉	21.6	7.9	16.0	9.2	澤山・島崎・山磨ほか1996		
35	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	溝-3	取水路	中期中葉～後期前葉	7.1	14.3			澤山・島崎・山磨ほか1996		
36	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	溝-3	取水路	中期中葉～後期前葉	7.7	16.3			澤山・島崎・山磨ほか1996		
37	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	溝-3	取水路	中期中葉～後期前葉	8.2	16.6			澤山・島崎・山磨ほか1996		
38	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	溝-3	取水路	中期中葉～後期前葉			16.4		澤山・島崎・山磨ほか1996		
39	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	土壇-199	貯蔵穴	後期中葉			6.5		高畑・正岡 1997		
40	津寺遺跡	岡山県岡山市北区津寺	集落	土壇-218	貯蔵穴	後期前葉	26.4	7.7	17.4	11.4	高畑・正岡 1997		
41	田益田中遺跡	岡山県岡山市北区田益	集落	包含層?	—	中期?				16.2	9.6	伊藤・岡田・二宮 1998	
42	田益田中遺跡	岡山県岡山市北区田益	集落	包含層?	—	中期?				20.4		伊藤・岡田・二宮 1998	
43	鹿田遺跡	岡山県岡山市北区鹿田町	集落	井戸-1	取水孔	中期中葉	24.7	7.3	15.6	10.5	柴・山本ほか1988		
44	鹿田遺跡	岡山県岡山市北区鹿田町	集落	井戸-1	取水孔	中期中葉				[18.2]	柴・山本ほか1988		
45	鹿田遺跡	岡山県岡山市北区鹿田町	集落	土壇-117	廃棄穴	中期中葉			14.2		柴・山本ほか1988		
46	鹿田遺跡	岡山県岡山市北区鹿田町	集落	土壇-254	不明	中期中葉	28.9	9.8	21.4	10.5	柴・山本ほか1988		
47	赤田東遺跡	岡山県岡山市中区赤田	集落	溝16	水田開運	中期中葉～後葉			7.4	15.4	草原・西田 2005		
48	百間川兼基遺跡	岡山県岡山市中区兼基	集落	竪穴住居4	住居	中期中葉				15.4	和田・物部・浅倉ほか2007		
49	百間川兼基遺跡	岡山県岡山市中区兼基	集落	竪穴住居11	住居	中期中葉			[7.1]		15.0	和田・物部・浅倉ほか2007	
50	百間川兼基遺跡	岡山県岡山市中区兼基	集落	竪穴住居11	住居	中期中葉	19.5	[6.8]		10.0	和田・物部・浅倉ほか2007		
51	百間川兼基遺跡	岡山県岡山市中区兼基	集落	溝5	取水路	中期中葉			6.1	14.9	和田・物部・浅倉ほか2007		
52	百間川原尾島遺跡	岡山県岡山市中区原尾島	集落	島状高まり遺構-1 a	水田開運	後期前葉			11.3		渡辺・岡田ほか1984		
53	雄町遺跡	岡山県岡山市中区雄町	集落	不明	不明	中期中葉～後期前葉				14.4	正岡ほか1972		
54	四辻土壇墓遺跡	岡山県赤磐市河本	墓	土壇30	埋葬	中期中葉～後葉			12.3	6.6	神原 1973		
55	用木山遺跡	岡山県赤磐市河本	集落	第4住居支群土器溜り	廃棄場	中期中葉	20.0	9.3	17.4	9.1	神原 1977		
56	才地遺跡	岡山県和気郡和気町小坂	集落・墓	竪穴住居35c	住居	中期中葉	28.8	8.6	18.4	8.8	下澤ほか2004		
57	才地遺跡	岡山県和気郡和気町小坂	集落・墓	竪穴住居36b	住居	中期中葉				16.0	下澤ほか2004		
58	才地遺跡	岡山県和気郡和気町小坂	集落・墓	竪穴住居39	住居	中期中葉～中葉				14.8	下澤ほか2004		
59	才地遺跡	岡山県和気郡和気町小坂	集落・墓	土壇36	不明	中期中葉	20.7	7.8	14.8	10.0	下澤ほか2004		
60	釜田遺跡	岡山県津山市戸脇	集落	土坑38	貯蔵穴?	後期前葉～中葉	21.6	8.6	16.2	8.7	村上 1979		
61	曾根田遺跡	岡山県津山市戸脇	集落	溝1	環濠?	中期中葉				15.1	9.8	仁木 2005	
62	中町B遺跡	岡山県美作市今岡	集落	竪穴住居1	住居	後期前葉				14.5	9.2	岡本・石田 2008	
63	波来浜遺跡A調査区	島根県江津市後地町	墳墓	2号墳第1主体横	埋葬	後期	15.8	6.6	14.2	6.9	宇野・門脇 1973		
64	波来浜遺跡	島根県江津市後地町	墳墓	不明	不明	後期				18.2	5.6	宇野・門脇 1973	
65	坂灘遺跡	島根県大田市仁摩町	集落・墓	不明	不明	中期中葉	24.6	6.5	18.3	9.6	藤田・児島・三宅ほか1987		
66	専光寺脇遺跡	島根県益田市久城町	墳墓	2号墓第1主体	埋葬	中期中葉～後葉				15.4	東山ほか2008		
67	青木遺跡	島根県出雲市東林木町	集落・墓	—	包含層	中期中葉			[19.2]	[10.8]	今岡・松尾ほか2006		
68	タテチョウ遺跡	島根県松江市西川津町	集落	河道4	自然流路	中期			6.2		瀬古ほか1992		
69	青木遺跡F地区	鳥取県米子市永江	集落	竪穴住居25	住居	後期前葉				13.7	船越・諸田・富長ほか1976		
70	丸山遺跡	鳥取県東伯郡三朝町本泉	集落	袋状土壇15	貯蔵穴	中期中葉	22.0	7.2	18.0	7.5	小島・山元ほか1984		
71	丸山遺跡	鳥取県東伯郡三朝町本泉	集落	袋状土壇32	貯蔵穴	中期中葉～後葉			7.2	18.8	小島・山元ほか1984		
72	青谷上寺地遺跡	鳥取県鳥取市青谷町青谷	集落	溝状遺構 (SD27)	河道	中期中葉～後葉			7.8	16.2	北浦・鬼頭・森本・野口 2000		
73	材木町遺跡	鳥取県鳥取市材木町	集落	不明	不明	中期中葉	22.2	6.9	14.6	10.0	久保 1990		

## **A Study about a Jar with Long Neck and Attached Foot of the Yayoi Period in the Chūgoku Region.**

**Susumu MURATA**

At the Satadao burial mound No.2, a jar with long neck and attached foot (*kyakutsuki -chōkeiko*) with an unusual shape for this region was unearthed. I took the opportunity and put together pottery of this kind ranging from the middle third of the Middle Yayoi to the middle third of the Late Yayoi period in the Chūgoku region for a comparative study.

As a result of this compilation, most jars are distributed in the southern part of the Okayama Prefecture, especially in the lower reaches of the Asahikawa River and the Takahashigawa River. In most cases, the jars with long neck are utilized in settlements in these areas. Concerning this fact, one can assume that in the region of Okayama Prefecture this kind of vessels were for daily use.

On the other hand, only a small quantity of jars was discovered in other regions. Even among them, one should take notice that most jars were utilized at graves in Hiroshima and Shimane Prefecture. One can assume that these jars were made to furnish graves in these areas.

In Okayama Prefecture, the features of the jars clearly changed from the Middle Yayoi period to the Late Yayoi period. More specific, the foot part was shortened, the bending of the body was emphasized among others. In terms of the features and the usage of the jars, Hiroshima Prefecture and the east part of Shimane Prefecture are alike. In addition, one can assume mutual influences between both regions according to examples from the Narahama, the Shiomachi and the Nishimoto site.